

週寫  
報眞

情 報 局 編 輯

四 月 七 日 第 二 百 六 十 六 號 十 七 ン

昭和十三年 四月七日 第 二 百 六 十 六 號 十 七 ン



靖國の社頭に頭を垂れ

父の遺志に耳を澄ます可憐な姿

やがて父子相傳へて國に殉せんことを誓ふ

われらひたすらその健やかな成育を祈り

心を一つに力を共に

われらすべてがその父たらんことを希ふ

(靖國の遺兒に寄す)

「時の立札」は他へ轉載その他に御利用下さい



# 靖國の子に父の慈愛

## 東條總理の遺兒を勵激

はるく、豊山河をこえて上  
京した滿洲の遺兒部隊は二  
十六日東京と同時に東條内  
閣總理大臣を官邸に訪問、  
挨拶をのべたが、東條總理  
は政府多難のなかから殊に  
遺兒たちのためにひととき  
をさき、一人々頭を撫で  
肩に手を置き「決してお父  
さまの名を恥かしめぬや  
う……」とやさしくさと  
し、遺兒たちも慈父の如き  
東條總理の思ひやりに頬を  
濡らして感激した



厚生省式典に答辞を述べる遺児代表福島縣小松第一等  
軍人援護會式典に御台座の朝香軍人援護會總長と陛下の御前に奉答を  
言上する遺児代表岡岡小松第一等



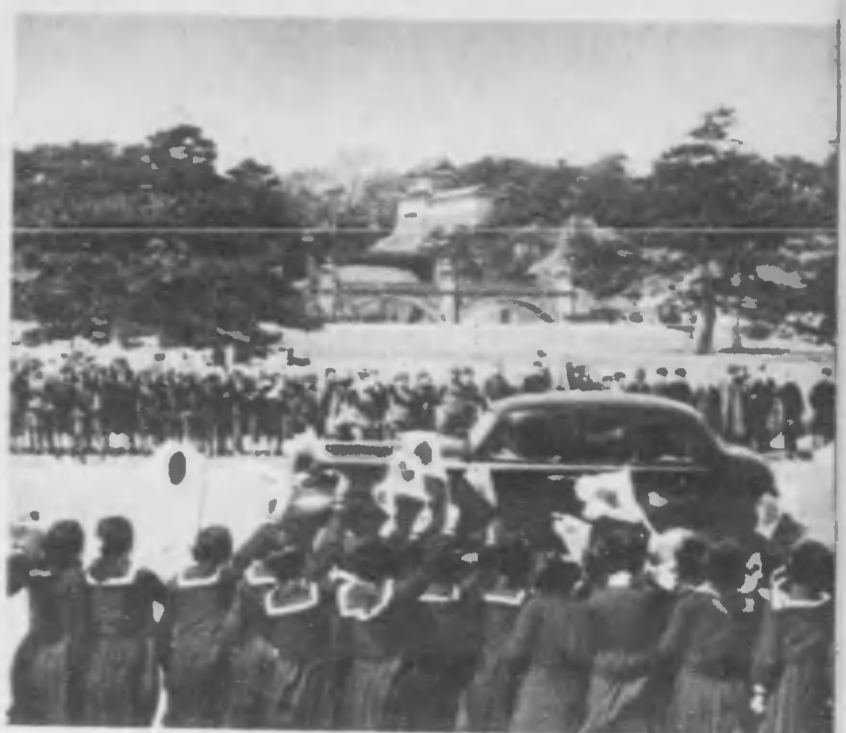
「さあ、いよいよ東京だ、お父さんのお側に来たんだ」旅の疲れも忘れて……  
東京と同時に故郷のお母さんに初便り「お母さん、明日はいよいよ参拜です……」楽しいペンを走らせながら喜びを語り合ふ神木の土田正雄君と島英雄君

**第五回遺児靖國神社参拜**

櫻井ころびそめる靖國の社に参詣してたちこめる神願に和して、いま遺児たちの魂のつばやきが、かそけくも木魂する。待ちに待った今日、晴れの日、この一瞬に心のありたいをこめた遺児たちは、今は神鎮まります父、兄の御靈に懐かしの御奉告をすすのだ。懐に揺き、胸にいだきしめる御姿に向ひ、聲なき聲をばりあげる「お父さん……」の叫びに、英霊も「おう」と答へられるであらう。言ひ知れぬ感激に輝く遺児たちの面には心深く灼きつけた父の遺志をうけつぎ、勤の人の子として立派に生き抜き戦ひ抜く決意がひし〜と窺はれた……  
大東亞戦下意義深くも二度迎へた遺児の日、第五回遺児靖國神社参拜は、全国より四千八百五十九名の譽れの子等を靖國の社頭に迎へ、三月二十七、二十八、二十九日の三

日に亘り、式典、昇殿参拜、見學など滞りなく終つたが、長くも 皇后陛下よりの御下賜品をはじめとし、各方面よりよせられた土産品ともく終生忘れ得ぬ思ひ出を胸に、それ〜家郷に急ぐ遺児たちの妻には、断乎勝ち抜く日本の決意がきびしく反映し力強い限りであつた  
お父さまやお兄さまの勳を懐びながら遊覧館の観覧  
喜びの御奉告に胸を躍らせる神木の遺児たち





皇座の御座遷に恐慄感したバーモ長官一行は沿道を通る旗の波に送られ宮中を退下した

# 間日二十京滯の激感 官長七一バ

明治神宮参拝のバーモ長官一行

バーモ長官が特に『官報』に寄せた自筆ニッポン、ビルマ、高麗、支那  
一三〇四年(ビルマ)昭和十八年(二)三月二十六日



無用した動一等旭日大綬章はビルマの正義に賛と映え、バーモ長官の眼は新ビルマ建設の希望にかきやいてゐる

ビルマの獨立に關して東條内閣總理大臣は一月二十八日の再會議合で「遅くとも、本年中にはビルマの建設を認めん」とする旨を聲明したが、今般バーモ長官以下ビルマ行政府の首魁たちは、この聲明に應へて獨立準備を進めるためにわが拙きに應じて來朝した。長くも、天皇陛下におかされては、三月二十三日バーモ長官以下に講を賜はり、また同二十日には勳章贈與の御沙汰あらせられた。

バーモ長官は皇座の御座遷に恐慄感激し、いよ／＼粉骨碎身、新生ビルマの建設に邁進する鞏固な決意を聲明したが、東條總理とバーモ長官とが會談した結果生れ出た新ビルマの構成は、その領域はシャン、カレン以外の全ビルマを包含し、またその國民は領域内の諸民族を協和的に抱擁したものである。政治機構は、もとよりビルマ自

上に現はし次ぎのやうな聲明をした  
「長くも皇座より御座遷を賜はり、恐慄感の至りに堪へず、益々粉骨碎身、新生ビルマの建設に邁進せんとの決意を緊めたる次第なり。上に御仁憲宏大無邊の皇座を戴き奉り、此の清淨なる國土に育くまれ、然久二千六百餘年に亘り字内に冠たる國家を成し來りたる日本の眞の偉大さに觸れ、日本に對する日頃の信賴の念愈々増大して止まる所を知らず」と冒頭し

(一)東條總理からビルマ獨立の榮譽を確保されたこと、(二)東亞諸民族興隆の唯一の方途は日本と協力し、道義に基づく大東亞新秩序の建設にあること、(三)大東亞共榮圏の一項として新たな歴史の創造に携はり得ることの絶大なる光榮に言及、新ビルマの指導方針は飽くまで大東亞共榮圏の一項たることにその根柢を有すること、(二)

體において決定するものであるが、國政の運用は強力簡潔なものであり、また經濟に關しても大東亞經濟建設の一項とするものである

かくして大東亞の盟主日本と話し合つて新ビルマ國の基本要綱を決定したバーモ長官は、青年のやうな喜びを面

バーモ長官一行は東條總理大臣招待の歡迎晩餐會に臨んだ

米英撃滅の大戦争に日本と協力挺身する種乎不動の決意を有すること等の諸點を闡明するとともに

『吾等は血の最後の一滴までも大東亞新秩序の建設に捧げんことを誓ふものなり』と起上るビルマの燃えるが如き熱意を遺憾なく反映させた



# 年産六百万石の米の国ビルマ



ラングーン河の水運によつて米は精米所にどんどん運ばれる



ビルマ軍政官 渡邊史郎

## ビルマの食べ物

ビルマの米は概して良質である。殊にわれ／＼が食べてゐるのはシャン地方に産する最上のもので、内地の純米と廻りがない。肉は主として牛肉である。これが三度三度の食糧に出るので、いさゝか鼻につく。鶏も澤山ある。卵も毎日食へる。たゞ道徳ながらインド人コックは料理が下手である。魚は多く獲れるといふが、あまり見ない。エビやカニが時折り出るが、いづれも大味である。野菜も筋つぼけに香りに乏しい。果物は今のところバナナ、オレンジ、パイナップルなどである。バナナは年中あるが、あとは季節ものだ。ドラゴン、マンゴ、マンゴスチンの出現が待たれる。ミルクはふんだんにあり、儲も安い。コーヒーも本物である。

## ビルマの水浴

熱帯國の常として、住民は毎日水浴を行ふ。屋内に設備を持つてゐる者は少いので、多くは戸外の共同水浴場で浴びてゐる。しかし、宗教上の觀念から全體を見せるのを忌むので、男も女も褌布をつけたまま、ザブ／＼やつてゐる。われ／＼はバスルームか野天の水浴場で裸になつて浴びるが、一汗かいた後の水浴の心地よさは、何にもたとへやうがない。たゞ、残念なことに水泳だけはできない。蚊の繁殖を防ぐためプールの施設はどこにもなく、川は濁流だし、湖水は泥が深く危険である。

## ビルマの住宅

さまざまの人種が住んでゐるから、さまざまの家がある。しかし、大體ビルマ人の家は日本の家屋と似通つたところがある。われ／＼の生活と直接關係があるのは、英人が残していつゝ近代式の文化住宅である。緑の郊外に明るく立ち並ぶそれらの家々に、彼等の豪華な植民地生活の名残をとめてゐる。ガレッジ、テニスコート、花園、サロン、ヴェランダ、バス附きルーム等々。かつては白スポンがまぶしくコートに躍り、また銀器が光り、シャンパンが鳴り、シガーが香り、ピアノが響いてゐた。だが、今やそこに新しい建設者達の汗の生活を始められたのだ。

百キロの米袋をかついで積み出す現住民



ビルマの重要資源としては、米が第一に挙げられる。農業國としてのビルマの名は、さらに米のために世界的に名高い。年産六百万トンに達する米は、従来、そのうち三百五十万トンが輸出され、ラングーン米として親しまれてゐる。この輸出先はどこかといへば、戦前まではインドに輸出されたものがその六割を占め、ビルマはインドの兵站部の感があつた。しかし、現在インドが敵地である限り、もはや一粒の米さへビルマからインドへ送らなくてはならない。幸ひビルマの本年度の米産額は、戦前下にも拘はらず豫想外の好成績で、マライ、スマトラの米不足を補つてなほ餘りがあるとは、其英國の食糧問題に關し力強い限りである。

親に精米所で精白され、其英國の消費地へ運ばれるのは精米所である







⇒ 宿舎の前で——職員——我等ハ出身職域ヲ超越シテ新々和洋ニ相シ相慕ミ隊守ヲ堅クシ以テ歸郷ヲ渴望シ日本女性ノ奮闘ヲ發揮センコトヲ期ス



白菊社

## 日本女性マニラ先遣部隊から

⇒ 日曜の午後にはお大連にまた「遊」に参ります。

ここのの環境、エスコルタへすよつとした買物やアイスクリムを食へては自慢です。

悪はれてマニラに渡つた日本女性のその後の便りをお送りします。

上陸第一歩、椰子の並木を歩いて

白々と浮かぶ美しいマニラの街を見た時、わたしたちはかねての覚悟とはまた違つた何か「浮き」た華やかな興奮を感じましたもの、あれから〇ヶ月、わたしたちの日々の規則正しい生活は、わたしたちをやらやくたちかへらせて、今日では與へられた使命や仕事がつつかり自分のものになつたとお話できるやうになりました。

仕事は地味です。生活も地味です。けれども、わたしたちはもうその中に事務の處理を通じて比島女性への共感を通じて、比島建設といふ大いなるものへのわたしたちの小さな努力がはつきりと役立つて來てゐることを感じます。わたしたちはうれしく、けんきで働いてゐます。

⇒ 子も、盛夏の季節が近づいて來ました。ムシや虫の氣配に抗して次ぎ、と暑熱の整理をしてゆくことは、仕事の難易は別としても、相當の體力と心に精神力が必要だとしみると思はれます。

次ぎから次ぎと仕事はまはつて來ます。わたしの力が建設の何かのお役に立つてゐると思ふと、たゞ「字々々かほん」と大切にものと思へます。

撮影 鈴木隆軍報道班員



⇒ 丈夫な上にも健康を——ラジオ轉播のときには、あの聞きなれたピアノの音律が母と差向ひの昔の生活をなつかしく思はせたりします。





古戦場の春

詩

神洲男児は意氣で征く  
保科義雄

響雷の海かそれもよし  
敵前上陸それもよし  
一帯乗りならこの偉だ  
まの島この海どこまでも  
神洲男児は意氣で征く  
十日も喰はずそれもよし  
彈丸の敵かそれもよし  
日の丸つかと抱きしめて  
あの山この河どこまでも  
神洲男児は意氣で征く

慰問袋

比島海軍 末永重一

袋にこもる真心を  
受くる銃後の慰問品  
困苦に泣かぬ武人も  
押し載いて泣きました  
謝しつゝ聞くその袋  
戦線へと石鹵が  
寝冷えするなど腹巻が  
御蔭で持ちます御奉公  
負傷はないかと巻まで  
何と御禮を申すやら  
親身にあまる御情に  
只々感謝に泣けました

俳句

比島海軍 米田新次郎

パイアの味にくつろぐ木陰かな  
比島海軍 前田朝之進  
線路や耳輪を話聴く  
比島海軍 小泉宇市  
吉田威嚇の砲に驚きけり  
比島海軍 大成治一  
城壁や白塔ひいで之青し  
比島海軍 田島雲一  
空に映え水に映りて稻のぞぬ

短歌

比島海軍 山田宗雄

イアガオのライステラスは信濃なる城塔山の川を思はしむ  
比島海軍 末永重一  
比島海軍 山崎正信  
比島海軍 切田安雄  
比島海軍 宗廣官弘

前線の諸勇士へ

ご元氣ですか。『寫眞週報』は、これまでしばしば前線諸勇士が陣中の餘暇に筆を執られた小説、隨筆、詩、短歌、俳句、川柳、漫書、並びに寫眞等を掲載してきましたが、一般読者を博し、ぜひ毎號掲載して欲しいとの熱望が編輯部に投函の状況です。軍務に多忙中とは存じますが、銃後の讀者にぜひ陣中作品をお送り願ひたいと存じます。宛名は、東京市麹町區承田町 情報局 寫眞週報編輯部にお願いいたします。皆様の武運長久をお祈りして止みません。

南方方向劇映画書籍募集

大東亞戦争の目的を明らかにするとともに、大東亞共榮圏の指導者としての日本の真の姿を、皇軍進駐地域や占領地の住民に諒解させることは、この戦争を勝ち抜く上に大いに必要なことです。情報局では映画による方法にも留意し、かねて本邦映畫中から適當な映畫を選んで南方向けに使用してきましたが、これだけでは十分所期の目的を達成し得ないので、こんど廣く國民一般から南方方向劇映画の原書を集めることになりました。次に掲げる募集規定に従つて書いて御願ひ下さい。

募集規定

- 一、内容 南方地域の原住民に對して、新日本の國力及び文化事情を平易に、また興味を以て理解させることと、大東亞共榮圏建設のため帝國と協力することに欣びを感じせしめるもの。
- 二、題材 時代は現代とし、背景は原則として日本内外地とする。地圖

- 一、情報局總賞(金三千元) 東寶映畫株式會社
- 二、情報局賞(金一千元) 該賞するものなし
- 三、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 四、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 五、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 六、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 七、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 八、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 九、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 十、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 十一、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 十二、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 十三、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 十四、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 十五、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 十六、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 十七、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 十八、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 十九、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし
- 二十、情報局特別賞(金五百圓) 該賞するものなし



貫縦島ソル  
す成完道鐵

鐵道は建設促進の勳戦である。敵の手に破壊された鐵道を一日も早く復舊することは、占領地の建設に何よりも肝要なことである。

フィリピンのルソン島でも昨年九月、陸運管理局が設立されると同時に、僅か七十名の邦入職員を中心に比島人を使用して、無残に破壊された鐵道復舊工事に着手し、それ以來機械器具及びその修理設備の不足、雨季の増水、颱風の被害等の様々な悪条件を克服して、工事の進捗に深くましい努力を傾けた結果、豫定より早くマニラ、レガスピー間の復舊に成功、三月二十一日めでたくその開通式が行はれた。

比島軍政監部では今後さらに資源の開発に必要な新線を建設し、ルソン島南北縦貫を實現せしめる豫定である。

上比島富士と呼ばれるマウンテンを窗外にマニラからレガスピーに向ふ縦貫鐵道列車

下レガスピーの街を飾る開通祝賀門





⇒ 銀座で——業務用の配給米が減つたので、店の方で出したくてもさうはいかないんです。そこでかうなつたのですが……こゝでは外食券や一合のお米を持つて来られた方は天ぷらでたつぷり御飯がいただける仕組みになつてゐるんです。なるほど、これもいゝ考へではありませんか



△大塚で 都会に働く獨り者の勤労者や學生さんにとつて、何んといつても戀しいものは故郷の家の食卓でせう。この店の主人やばさんはその氣持をよく心得て、とかく殺風景になり勝ちな食堂の、壁にはちやんと寫眞や絵が貼つてあり、一輪挿しには花も生けてある。またラジオも唄を歌つておれば、備へつけの雑誌も二、三冊おいてある。同じ一杯の井でも、そこに盛られてゐるものには榮養以上のものがあります

△池袋で——これは僕の財布に手頃と思つた店は、「本日休業」でしたが、その下に何か書いてあります。「売食御持参の方はどうぞ御利用下さいませ」なかに入ると、通りがりの運轉手さんがおにぎりを焼出したり、娘さんがアルミのお弁当をひらいたりしてゐます。勿論、水は飲みはうだしい。僕はすつかりうれしくなりました。この店の主人の温かい思ひやりがうれしいのです

# 明日は戦くは 写真週報腹を空かして街に出る



近頃の都會で一番困るのは外食です。外食券を持つてゐたり、辨當持參で外出すれば、これに越したことはありませんが、それもできない事情の人もをりませう。この人たちの『さて畫めしは、晩めしは』にお供をして『寫眞週報』はお腹をすかして東京の街へ飛び出してみました！

△京橋で——Aランチありますか——賣切れです。ちやBランチ、八十錢の——賣切れです。五日焼飯——ありません。おや、何があるの——定食です  
あー二圓か？……  
暮日は明日から調節するとして、さて出て来たものは、僕の食慾にはさしみ、つまばかり食べたやうな感じなんです。材料不足からどの店でも定食となりがちなことも分りますが、それが二圓であり、二圓五十錢であることは大變つらいです。何んとかそこを工夫して、大衆食堂では僕らを相手の食事を都合してもらひたいものと、今日はつくづく思ひました  
△新宿で——或るデパートの食堂にゆくと、こゝではお客さんが順ぐりに自分の食事を食卓に運んで食べてゐます。人手不足の生んだ名案ですが、これは僕としても大變ありがたいと思ひました  
みなさんご経験がおありでせう。せつかく椅子を譲得したのになかなか給仕の女の子が来てくれなかつたり、やつとのあなたの注文より先に前のお内儀さんの興亞ランチが先に来たりして、すきつ腹に腹を立てたことが……あれはすつかりなくなつて、僕も安心して食べられたわけ



ほぐらの教室も、戦場だ

勉強に訓練に 向む北朝鮮のヨイコたち



科学生活はこれからの国民生活の大事な基礎だ。自然観察からはじまって、模範飛行機に、各種機械の見学に、ヨイコ達は訓練に實際的にと訓練されてゆく

わたしたちも食糧増産でお國のお役に立ちませう

この町、この村の国民学校でも、いまヨイコモ達は、僕等も戦つてゐるのだ、僕等の教室も戦場なんだ、といふいきごみで一生懸命に勉強をしてゐます。まことにたのしい姿ではありませんが、遠く朝鮮も北の方にある咸鏡南道の下枝川公立国民学校のヨイコ達も、僕達も負けてたまるものかと、渡邊校長先生を部長長に、受持の先生を中隊長に、組を分隊や班にわけて、毎朝の朝會に始まつて、一つの教材も、一時間の勉強も、すべての日常生活も、よい國民になれるやうに、強い兵隊として奮起するやうな強い身軀になれるやうにと、ひたすらにはげんでゐます。さあ皆さんも負けないで、一生懸命に頑張りませう。日本の國を背負つてゆくのは皆さんの肩にかけられてゐるのです

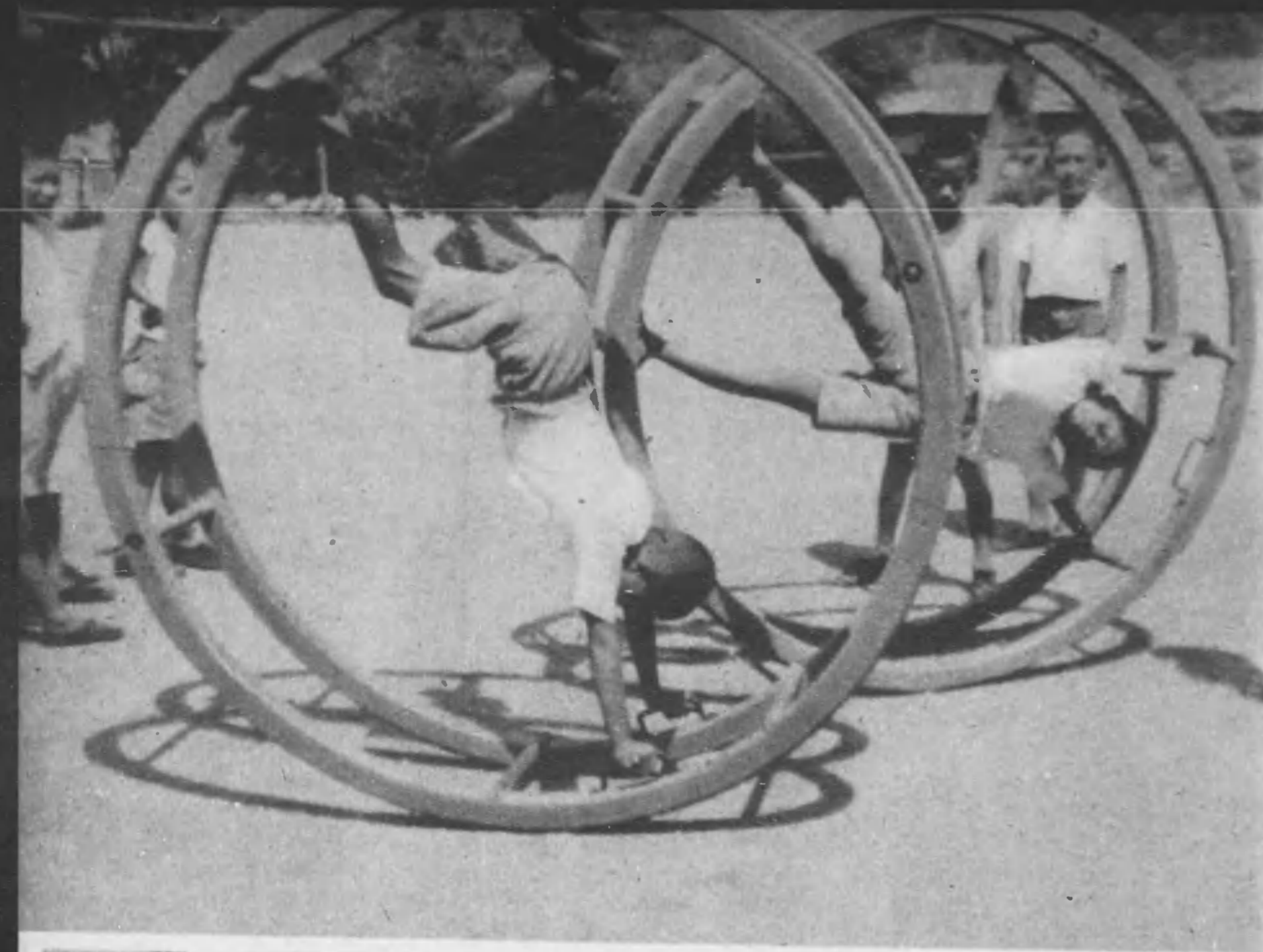
タスリ、タスリとフープが廻る。僕等はきたへる強い子、よい子。未来は少年航空兵だ

撮影 朝鮮咸鏡南道下枝川公立国民学校



僕達だつて大人には負けないぞ、勤勞作業で戦後奉公生活の訓練だ

古道具も空堀も空堀も、大事なお國の興衰よ、さあせつせと集めませう



兵隊さんへは、いくら有難うといつても足りないわね。慰問袋をお送りいたします、朝鮮名物を召し上つて下さい。この袋は不用になつた国防婦人會や愛國婦人會のたすきで作りました。廢物利用も上手でせう

大東亞戦争漫画日誌  
川石 進



社長も用で戦力増強制強化



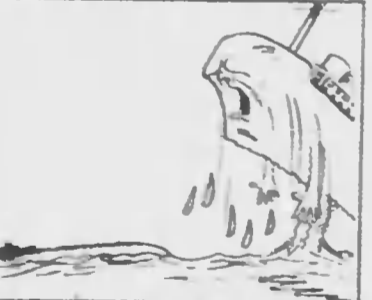
モロビマル行政長官来訪



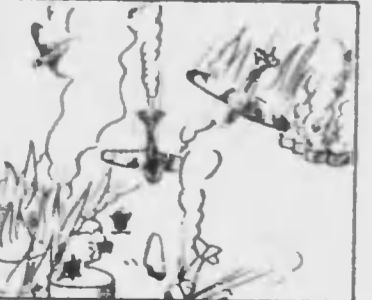
米・英の共同車合ふは



船長昌昌の敵艦送船



船長昌昌の敵艦送船



ボートマン大奮闘



軍長成良の訓練場



照準器  
花見  
決戦

花見  
決戦

寺尾よし丸  
若い衆、速石ちや  
「ワーン、速石は決戦下、銃後の実兵、生熟戰士の混花見だけあるワイ、備え配給の酒など持つてきて、穴があつたら這入りたいワイ」

雪吹櫻  
しかた次佐  
ることたきてつやに見花安嶽へ山裏で中隊の組織  
【のたしかうど、ラア】  
せでんるてつ語が響になんこたま、やが鐘の北  
【—\*—】

津田 亮  
「あなた、種の花の真つ盛りになりましたわ、心ゆくまで御覽遊ばせよ」  
「お、親友よ！」

受信



米機の反撃に  
来もなら来い



★表紙  
「お兄さん、僕です。見て下さい、こんなに大きくなりました。お兄さんが戦死された時はまだ一年坊主でしたが、今はもう五年生です。僕もお兄さんに負けず、しっかりと勉強をして立派な人になり、きつとお國のために戦います」  
神國神社奉納の日、雄大な勇気と精神に御報告し、お兄さんの遺児の一人、大連市安部君

「描かれた、空の要請」  
京都市 明田耕太郎  
京都市の中心街、四條河原町十字路の板垣を以て、進行く市民に勇ましい決意を強調する大看板が出来上つた。これは京都市警備隊門下生徒の奉仕活動によって見事描かれた「空の要請」で「くるから来い」の決戦無情へを示してゐる

京都市民の御覧  
京都市 明田耕太郎  
決戦下線部隊の困苦奮闘を以て體験しておかりと、京都市主催の市民自衛隊走行観戦會は三月二十一日、参加市民五百女子部隊四十名も加はつて華々しく開催、風爽と清春の京阪国道七十キロを走行して兼ちて止まむ精神を昂揚した

北方スキー王國の威容儼然と各學校および團體による第十七回全神太スキー選手權大會は、精強四百の若人を結集して三月六日、旭ヶ丘ヒューマの構前に大日遊族を仰ぎ、嚴肅大態に開催され、決戦下輝く意志の勝利を記録した

寫眞週報 昭和十八年四月十七日 第三千九百九十九号 東京市豊島区大塚一丁目本報印刷局 電話 二六二二

# 撃ちしやまむ 決戦貯蓄



## 東海銀行 本店名古屋

寫眞週報  
(禁轉載)

昭和十八年四月  
七日印刷發行

情報局

東京市豊島区  
大塚一丁目一  
番

内閣印刷局  
東京市豊島区大塚

一部十錢

(送料一錢)

▲外國郵送に依

る地域は送料依

其一部十九錢

▲後約配達御希望

の方は一部十錢

(送料一錢)の割

合を以て前金を

添へ御申込み下

さい

▲特大版の場合は

其の都度御持込

金より差額を申

受けます

所 達 申	定 價
新聞販賣店	一部十錢
書店・驛賣店	(送料一錢)
販賣所	▲外國郵送に依る地域は送料依其一部十九錢
全國各地官報	▲後約配達御希望の方は一部十錢(送料一錢)の割合を以て前金を添へ御申込み下さい
所 達 申	▲特大版の場合は其の都度御持込金より差額を申受けます
新聞販賣店	
書店・驛賣店	
販賣所	
全國各地官報	
所 達 申	
新聞販賣店	
書店・驛賣店	
販賣所	
全國各地官報	
所 達 申	
新聞販賣店	
書店・驛賣店	
販賣所	
全國各地官報	

前線慰問に本誌を  
お読みになつたら本  
誌を前線慰問に送り  
ませう。送料は内地  
と同様で帯封あるひ  
は開封にして第三種  
と明記すれば、一部  
一錢です

内閣印刷局印刷發行

(列強製本)A4判縦長は333大の書本